



はんたい 反対のことをどうしてあべこべというの

あちらこちらがなまった

「あべこべ」というのは、^{せいはんたい}正反対のことをいったものです。あっちの方とこっちの方、^{ほう}とか、あちらこちら、^{ほう}ということばがなまったようで、さかさまとか、^{てんとう}転倒した場合に使われていました。

^{じょう}状きょうがあべこべになった例として、「^{てき}敵を、^{てんぱん}こてんぱんにやっつけてやろうとしたら、あべこべに、^ま負けてしまった」というように^{つか}使います。

^{さゆう}左右があべこべになった例として、「^{れい}信号を左に回ってといわれたのに、^{しんごう}まわまちがえて右に回ったら、あべこべに、^{もくてきち}目的地とはぜんぜん^{はんたい}反対の方向^{ほうこう}に行ってしまった」ということになります。

あべこべになる話の例

^{はなし}話があべこべになるような例^{れい}もあります。「^{しごと}こどもにばかり、つらい仕事をいいつけるなんて、^{はなし}話があべこべじゃないか」。順序^{じゆんじょ}があべこべになる例として、「^{れい}おつかいをしてからお礼^{れい}をもらうものなのに、それを先^{さき}にくれというのはあべこべじゃないの」。

このように、日常生活^{にちじょうせいかつ}の中で、^{なか}いろいろな場合^{ばあい}にぎゃくことばとして使^{つか}われています。

(監修・保岡 孝之)

